

3 中学校の生徒が自衛隊の仕事や防災学ぶ

自衛隊静岡地方協力本部静岡募集案内所（所長・河野隆准陸尉）は、5月16日（月）から19日（木）の間、静岡市立高松・服織・藁科各中学校の生徒合わせて6人の職場体験学習を行った。

初日は、高松中学校の生徒が同案内所において、海上自衛隊が使用する手旗信号とロープワーク体験を行った。生徒同士が手旗信号を使って簡単な言葉を送り問題を出し合ったり、日々の生活に活用できるもやい結びなどを学んだ。

2日目は、服織・藁科中学校の生徒も合流し、陸上自衛隊板妻駐屯地（御殿場市）で部隊が保有する高機動車に乗って駐屯地内の施設を見学したり、隊員から訓練の様子や装備品について説明を受けた。また、「航空自衛隊」の文字がプリントされた消防服の試着や消防車を使った放水など、消防隊員の仕事を体験した。

さらに、普段立ち入ることのできない同基地の配電室で、電気を管理する電気員の働く姿やその業務の一部を体験した。4日目は服織・藁科中学校の生徒が、案内所から安倍川の河口まで片道約4キロを歩いた。両校が河川の近くに位置していることから、歩きながら堤防の重要性や決壊の危険性などを学び、到着地である中島展望広場では、河口の砂を使った土のう作成や構築要領など「水防法」について体験学習を行った。



消防服試着

参加した生徒は「航空自衛隊の仕事は専門的で、いろんな仕事があることを知った」「土のうはただ並べればいいわけではないことを学んだ。きれいに密着させて構築するのが大変だった」と感想を話していた。静岡所は、今後もこのような職場体験学習に協力し、生徒の職業観の育成や防災意識の向上の力添えとなるよう邁進していく。



手旗信号体験

掃海艇「ちちじま」 下田黒船祭で特別公開

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・武田恭一 一等空佐）は5月21日（土）と22日（日）、下田市外ヶ岡岸壁において海上自衛隊の掃海艇「ちちじま」（神奈川県横須賀市）特別公開を行った。

これは第83回黒船祭に併せて行ったもので、事前に申し込んだ131人が、5人ずつのグループに分かれて艦橋や装備などを見学した。

当日は色とりどりの信号旗を掲揚する満艦飾も行われ、岸壁に集まった見学者たちは鮮やかに彩られた掃海艇を夢中で写真に収めていた。

見学では、艇長が指揮をする艦橋や機雷除去任務に使用する装備品などの説明を受けたほか、乗員によるらっぱ吹奏や手旗信号の展示も行われた。乗員が見学者の名前を聞いてその場で手旗信号で表すと、その俊敏な動きに拍手が沸き起こった。

また、船の航行に関する仕事や、海に潜って作業を行う水中処分員の仕事などをそれぞれの担当者が紹介し、見学者からは「子供が将来海上自衛官になりたいので、どんな仕事があるか知ることができて良かった」という声も聞かれた。

静岡地本は、今後も自衛隊の任務や自衛官の仕事をもっとの人に知ってもらえるよう、広報活動に努めていく。

